

第1章 関西広域連合の実績と課題

I 関西とは

- 1 関西ということ
- 2 関西の特徴
 - (1) 自然環境、歴史、文化
 - (2) 研究・教育、人材育成
 - (3) 産業
 - (4) 住民生活

II 関西広域連合の設立経緯

「制度疲労を起こしている現在の中央集権体制を打破し、自らの政策順位を決定・実行できる関西を作り上げていくため、平成 22 年に関西広域連合を設立。（以下、設立の 3 つのねらい）

- ① 地方分権の突破口を開く（分権型社会の実現）
- ② 関西における広域行政を展開する（関西全体の広域行政を担う責任主体）
- ③ 国と地方の二重行政を解消する（国の地方支分部局の事務の受け皿づくり）

III 関西広域連合の 8 年間の取組

- 1 現在の組織体制
- 2 7 分野の取組
 - (1) 広域防災
 - (2) 広域観光・文化・スポーツ振興
 - ① 観光振興・文化振興
 - ア 観光振興
 - イ 文化振興
 - ② スポーツ振興
 - (3) 広域産業振興
 - ① 広域産業振興
 - ② 広域農林水産業振興
 - (4) 広域医療
 - (5) 広域環境保全
 - (6) 資格試験・免許等
 - (7) 広域職員研修
- 3 その他の事務
 - (1) 権限移管の推進と政府関係機関移転促進の取組
 - (2) 横断的広域課題への取組
 - ① 琵琶湖・淀川流域対策
 - ② 特区事業の展開
 - ③ エネルギー政策の推進
 - (3) 関西経済界等との国家的プロジェクトの推進
 - ① 北陸新幹線などの広域インフラ整備
 - ② ワールドマスターズゲームズ 2021 関西
 - ③ 2025 日本国万国博覧会の開催
 - (4) 関西の各主体と連携した取組
 - ① 関西観光本部
 - ② 関西健康・医療創生会議
 - ③ 関西女性活躍推進フォーラム
 - ④ 関西 SDGs プラットフォーム

IV 関西をめぐる情勢変化

- 1 世界・日本の中の関西
- 2 関西における人口構成の変化
- 3 関西の自治体の状況

V 関西広域連合の課題

- 1 地域ガバナンス力を高めるために

【課題】 関西として効率的な取組を進めるためには、異なる立場や背景を有する各主体と課題を共有し、調整しながら進めなければならない。

→ 自治体のみならず、関西経済界や関係機関を含めた圏域内での利害調整や方向付けを行う地域ガバナンス力を高めることが必要。
- 2 国の事務・権限の移管や国の中枢機能の移転を進めるために

【課題】 国における地方分権の機運が停滞しており、現在のやり方では地方分権が進まない

→ 国の出先機関の丸ごと移管を掲げてきたが、国の出先機関や関西広域連合の特徴を踏まえ、関西らしい実効性のある取組を進めることが必要。
- 3 日本・関西を元気にするために

【課題】 関西の活力が低下、停滞している

→ 都市間競争の激化や人口減少、度重なる災害の発生など、我が国の抱える課題は大きく、国は早急に、関西が我が国の双眼構造の一端を担うための具体的な方策をつくるべき。

VI 関西広域連合の強化・進化にあたって堅持すべき視点

- 1 8 年の実績を活かした「関西」にふさわしいもの（関西広域連合を進化させたもの）
- 2 地方自治、地方創生の理念を実現するもの（地方自治体であること）
- 3 二重行政ではなく、府県とともに広域行政の役割が発揮できるもの（府県存置であること）
- 4 国との役割が明確となり、それぞれが最大限の機能を発揮できるもの（国と地方を通じた我が国の統治機構の一端を担うもの）

「第 2 章 関西広域連合の更なる強化」へ